

トウヒノクロハバチ (別名 トウヒハバチ)

夏から秋にヨーロッパトウヒの葉を集団で食べるイモムシ (幼虫)。最大長約22mm。頭は黒く、背中は灰色。成長しきると全体黄色になる。

まれに多発する。



1. 幼虫。1981/9. 中川町, ヨーロッパトウヒ。



2. 終齢幼虫, 17mm. 1995/10/11.



3. 繭。1を飼育。

【学名】 *Gilpinia tohi*

【分類】 ハチ目 (Hymenoptera), ハバチ垂目 (Symphyta), マツハバチ科 (Diprionidae)

【分布】 北海道, 本州。

【生態】

年1世代, 成虫は6月に出現するといわれている。雌成虫は1から2本の当年生枝上に集中的に産卵する。卵は1針葉に1個ずつ産み付けられる。幼虫は7月に孵化する。2齢以降は主に旧葉を食べる。幼虫期間は20日~2ヶ月間で, 個体により大きく異なる。落葉層や下草の根元に繭を作って越冬する。

【被害】

街路樹や庭木のヨーロッパトウヒでまれながら多発する。エゾマツやアカエゾマツでの多発は観察されていない。

食害が樹木の成長等に与える影響については特に報告がない。

【文献】

1994. 吉田成章. トウヒハバチ. 小林富士雄, 竹谷昭彦, 編集. 森林昆虫, 総論・各論: 348-350. 養賢堂, 東京. (形態, 生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

トウヒノクロハバチ habahoka/tohihaba/
1yochu.jpg, 1mayu.jpg

「写真1, 3」鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1981.

2yochu.JPG

「写真1」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1985.